

高岸税務会計事務所 ニュースレター

当税理士事務所は気軽に相談でき、親身に
相談にのる税務・財務のスペシャリストです

高岸税務会計事務所

〒569-0803 大阪府高槻市高槻町 9-19 カナブレ 202

電話：072-683-0230 FAX：072-683-0376

<http://www.gishitax.com/>

mail：info@gishitax.com

お気軽にお問い合わせ下さい 072-683-0230



【コラム】 夏の季語である「扇」は、涼しくなって出番がなくなると「扇置く」という秋の季語として再登場します。いまだに扇が手放せないほど残暑が厳しい地域もあれば、随分前に扇を置いた地域では爽やかな秋風が吹きはじめます。季節の変わり目には、南北に長い日本の地形を改めて実感します。

「ハンバーガーをテイクアウトして節税に」

深刻な財政赤字のため、いよいよ消費税に関する議論が活発になってきました。現在、日本の消費税率は、非課税のものを除いてすべて一律5%です。今後これが、引き上げられていきそうな気配です。そうなる問題になるのが、「所得に対する逆進性」です。これは、税率が上がるのと所得が低い人ほど「収入に対する消費税の割合」が大きくなるという考え方です。

例えばイギリスでは、食料品の税率は0%でも温かい商品などは17.5%になります。また、ドイツではハンバーガーをお店で食べるのと税率は19%ですが、持ち帰れば7%になります。

さらにフランスではキャビアが19.6%でトリュフは5.5%と定められています。

このように複数税率は、同じ商品なのにどこで食べるかで税率が異なったり、食料品の種類や状況によって細かく分類されて非常に複雑です。そのため日本では、消費税率を引き上げた場合、複数税率にするのか、はたまた現状のように一律税率のまま、所得の低い人には食料品などの支出に掛かった消費税分を払い戻す方法にするのか議論がされています。



【不景気による節約疲れから今・・・】

コンビニやスーパーで「プチ贅沢」な食品がヒットしています。プレミアムを名乗るビールやアイスクリーム、ロールケーキは通常より数十円高いですが、素材などのこだわりでちょっぴり贅沢な気分が味わえます。レストランでの食事のような優雅な贅沢ではなく、自分の中で満足できるのがプチ贅沢。不景気による節約疲れから贅沢気分を求める消費者の要求に応え、各社しのぎを削っています。数十円の差に上質を追求し、ヒットを生み出す開発力は見習いたいものですね。



【今月の教えてキーワード：ギリシャ財政危機】

2009年10月ギリシャで政権交代が起きた。新政権は、国家の財政赤字が従来公表額より遥かに大きいことを発表。前政権のずさんな統計処理、財政赤字の粉飾疑惑が表面化した。政府は公務員の給与引き下げなどを柱とする財政再建策を発表したが、格付け会社はギリシャ国債を格下げした。その信用不安は巨額の財政赤字を抱えるポルトガルやスペインなどにも波及し、国債は急落。懸念は欧州全体へ広がりユーロ安も進んだ。

【商売に磨きがかかった人の舞台裏】

行き慣れない高級レストランに招待されても、内心あまり嬉しくない。それより行きつけの店で一杯やったほうが良いと思う。慣れない場所は居心地が悪く、慣れた場所は落ち着くからでしょう。



「心地良い空間や状態」を心理学用語で「コンフォートゾーン」と言います。単に場所の話ではなく、慣れたやり方、じっくり考える考え方、つまり「自分らしい」と思える状況はあなたにとってのコンフォートゾーンなのです。慣れた場所や状況は居心地が良いので能力を発揮しやすくなるものの、「ぬるま湯化」して抜け出せなくなったときは要注意です。一度コンフォートゾーンを意識すると、慣れない事態に遭遇したとき無意識にコンフォートゾーンに逃げ込もうとします。その状況に不慣れなために居心地の悪さを感じて、慣れ親しんだ「今までの自分」に戻ろうとしてしまうのです。今までのやり方で商売が上手くいかないのに、「今までの自分」という枠から出ようとしなない人が大勢います。しかし、慣れた状況でもがいても今まで以上の能力はまず発揮できません。それどころか、逆に絶好のチャンスが訪れているときでさえも、「こんな良いことが自分に起きるわけがない」と尻込みしてチャレンジを避けてしまう。「慣れ」も良し悪しというわけです。

新しい局面を迎えたとき、もしくは慣れたやり方から脱出して状況を変えたいときには、新しい「自分らしさ」を探ってみましょう。商売であれば、商売が上手くいっている人のコンフォートゾーンを積極的に真似てみる。判断基準も発想も行動のタイミングも自分とは違うので、慣れないうちは居心地の悪さを感じるものです。けれど脳には、どんな環境にも対応できる可塑性（かそせい）という性質があります。繰り返し真似て自分になじませ、徐々に居心地の悪さを感じなくなった頃、あなたのコンフォートゾーン、つまり「自分らしさ」はワンランク上にスライドしているはず。そんなあなたを周囲は「商売に磨きがかかった」と見ることでしょ。

新しい局面を迎えたとき、もしくは慣れたやり方から脱出して状況を変えたいときには、新しい「自分らしさ」を探ってみましょう。商売であれば、商売が上手くいっている人のコンフォートゾーンを積極的に真似てみる。

判断基準も発想も行動のタイミングも自分とは違うので、慣れないうちは居心地の悪さを感じるものです。けれど脳には、どんな環境にも対応できる可塑性（かそせい）という性質があります。繰り返し真似て自分になじませ、徐々に居心地の悪さを感じなくなった頃、あなたのコンフォートゾーン、つまり「自分らしさ」はワンランク上にスライドしているはず。そんなあなたを周囲は「商売に磨きがかかった」と見ることでしょ。

今を生きる
先人の言葉

すべてこの不幸は、
未来への踏み
台となすぎない

アメリカの作家であるヘンリー・デイヴィッド・ソローの言葉。自分の身に起きたことは、すべて明日への踏み台である。喜ぶこともなければ、悲しむこともない。



川柳
一番（たぶん）上！

ベツバラは
三段の
うちどの
段よ？